

1. 高寒性樹種の育苗試験

(1) モミ属の発芽促進

(2) モミ属の床替試験

1. 試験担当者

木曾分場造林研究室 荒井 国幸

2. 試験目的

ウラジロモミ、シラベ等のモミ属は発芽および成長がおそく、県下における得苗率も著しく低い。これらの問題を解決するため、モミ属の得苗率向上と育苗期間の短縮を目的とした育苗技術試験を行なう。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

- ① 秋まきと冷処理の効果がみられ、まき付時期は5月上旬が最も良かった。
- ② タネの冷処理と変温処理の効果がみられた。
- ③ 日覆材料はしゃ光率60%のものが最も良く成長し、霜害予防には80%のものが最も有効とみられた。
- ④ 挿木は、4、5年生の苗木からとって挿したものが最も良く発根し、発根率は70%以上であった。
- ⑤ タネのホルモン処理、まき付床の立枯予防剤処理の結果は、明らかな差異が認められなかった。

4. 昭和45年度の試験計画

- ① 苗木に対する長短日処理試験
- ② 苗木に対するフンム灌水処理試験
- ③ 床替苗に対する日覆試験（継続）